

光明禪寺

第 484 号

令和五年一月

現在に活きる

仏の教え

いつまでも、自分の傷に甘えてい

ちゃ駄目だよ。

あんなことがあつたから、もう頑

張れないなんて、自分の幸せに

蓋してるとだけだよ。

協調性より大事なことがある。

人に嫌われる勇気を持つんだ。

決定を後に延ばすから、混乱が

生まれるんだ。

未来は、今つくられてい

電話 221 4127 (2回線)
4171
090 7981 9123
FAX 241 3519

(県・市文化財指定安置所)

〒八九一〇〇三 指宿市十町南迫田二七六八

一月の行事

一 転大般若会 祈願・修正会

二、二日 朝夕 六時

一 曉天竺禪会 初二日曜(八日) 朝六時

初四日曜(二十二日)

一 初地藏尊・水子供養

二十四日 二時

謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、皆さまのご多幸とご繁栄を心より祈念申し上げます。昨年も政治や経済、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)などでさまざまなることが起こり、社会の混迷が浮き彫りになったように思えます。多くの方々が、先行きに不安を感じたのではないのでしょうか。

人は誰しも、先のことを考えると不安になります。未来のことは分からないのが当たり前のことだからです。古い仏教のことは「過ぎ去れるを追うことなかれ」とは「過ぎ去れるを追うことなかれ」いま来たところを念(おも)うことなかれ「一夜賢者の傷」というものがあります。過ぎてしまったこと、また来ていないことについてあれこれ思うのは、悩み・苦しみのもとなのです。禅には、「日日是好日」

「日」ということは「ありまゝ」です。あれこれ思い悩むことなく、一日一日の出来事をかけがえのないものとしてとらえ、一生懸命に暮らす。すると、日々がかけがえのない「好き日」となるのです。

毎日がかけがえのないものになれば、毎月が、毎年がかけがえのないものになり、生きることもかけがえのないものになります。新年を迎え、この一年をより長く生きるためにも、「日日是好日」の気持ちで暮らしてみたいかがたでしょうか。

令和五年 元旦

光明禅寺住職野口良雄

◇御援助薄々

福澤美知子様・中俣博江様より
お花代を頂きました。

有難うございました。

玉利地区にお住まいの大坪忠様
南迫田地区にお住まいの鶴之園住子様
護持会費を納入して下さい。檀家
に入檀して頂きました。
お知らせ致します。

訃報

信徒 弥次ヶ湯地区・市営住宅の
吉崎 義人様が急に十二月二十一日
七十六歳を以て永眠致しました。
ここに故人の御冥福を切に
お祈りします。

住転の話し

今はコロナで人間の心が変わったと口
ぐせに聞く。コロナのない時は良かった

か……！ まさにお釈迦様の言
われた通り 弱肉強食である。
自分さかよかれは 人はどうでも言い
家族薪にもなり 人間の心がなくなる
ってしまった。貪欲になり 経済
が悪くなり 物価高である。
一息して 胸に手をあてて
自分を見め直そう。

新たな年に向けて

「昨年は何もなくあったと言う間
に一年が過ぎてしまった。今年は何
か良いことがあるような気がする
る」と思う人は多いと思ひます。
同じように日は昇り、同じように日
は沈み、いつもと変わらぬ一日が続いて
いるだけなのに、新年を迎えるとい
何かが変わるような気がします。初日

の生を見ても、特別に輝いて見え
ます。これは、心の持ち方次第で感
じ方が変わるからなのです。皆さ
んは、初詣に行つて何を願ひしま
すか。「何か良いことがありますよ
うに」。「〇〇大学に受かりますよ
うに」。「宝く
いに当たりますよいうに」。「今年こそは
結婚出来ますよいうに」。「健康であり
ますよいうに」と様々だと思ひます。
しかし、願ひだけして自分では何も
努力しなければ、叶う筈がなく、自分
自身が変わらなければ、何も変わる
ことはありません。努力もせずに「願ひ
が叶わなかった。神も仏もあるものか
」と言うのは、自分勝手ではなつてしま
うか。「正法眼蔵随聞記」には、次のよ
うに書かれています。「志が徹底しな
いのは、無常ということをよく考えな

いかうである。われわれの体の細胞も
一瞬一瞬に死滅し再生を繰り返
し、少しの間も一定な状態を保つ
ていることはない。生きていくわづかの
間に、時をむなしく過ごしてはなら
ない。何気なく過ごしてきますと、
明日も変わらざるや来て来るよ
うに錯覚してしまいます。しかしこの体
をはいじめ、世の中の全てのものは常に
移り変わり、一時も同じ状態に
とどまっていられることはありません。
全てが変化しているのです。そのこと
が本当に分かれば、志が徹底しな
い筈はないでしょう。

人生は永きにあらず
いかに深く生きるかである